特集

12月4～10日は人権週間です
■問い合わせ　福祉人権係
☎093-293-1273

同和問題を身近なことから考えよう

生まれた場所で何かが変わる？

親しい友人や交際相手の出身地によって、周囲の人があなたから距離を置くようになったら、どう感じますか？

「自分には関係のない問題」と思っていても、家族の結婚や身近な人との会話の中で、同和問題に向き合う場面があるかもしれません。人権週間をきっかけに、普段の意識や行動を振り返ってみましょう。

Q 同和問題って何？

A　同和問題（部落差別）とは、日本社会の歴史の中で形作られた身分差別に由来し、特定の地域の出身であることなどを理由に、結婚や就職、日常生活で不当な扱いを受ける人権問題です。本人の人柄や能力とは関係のない、出身地や家族の背景などによって人生の選択や人とのつながりが妨げられてしまいます。差別される側に原因はありません。出身地により人を決めつける偏見やそれを受け入れてしまう周囲の意識が問題視されています。

Q どんなことに気をつけたらいいの？

A　周囲の何気ない言葉や態度には偏見が潜んでいるかもしれません。うわさを鵜呑みにしたり、言葉を額面どおりに受け入れたりしないこと。大切なのは、生まれた場所ではなく人柄や考え方です。もしも、生まれた場所を知っただけで接し方が変わるとしたら、それはあなたの偏見です。

Q 知らなかったら差別はなくなる？

A　「話題にしなければ、自然になくなるのでは？」と考える人もいるかもしれません。

しかし、正しい知識がなければ、差別的なうわさに触れたとき、その誤りに気づくことができません。また、被害を受けた人が声を上げても、周囲が問題として受け止めなければ、孤立を深める恐れがあります。

誰がどこの出身かを詮索することは不要ですが、差別の仕組みや人を傷つける言動を知ることは大切です。

インターネットで今も広がる同和問題

同和問題は過去の話ではありません。インターネット上では、特定の地域を同和地区だと指摘して差別や誹謗中傷を扇動する動きが問題となっています。投稿は短時間で広がり、画面の向こうにいる人の暮らしや尊厳を傷つけます。



人権週間映画上映会

もし自分が、当事者の友人や同僚だったらどのように接するのか。登場人物の思いを通して、差別や偏見について考えてみてください。



© 全国水平社創立100周年記念映画製作委員会

映画 破戒

主人公の瀬川 丑松は、
自らの出身地を隠して生きる教師 ──

なぜ、出身地を隠して生きなければならなかったのか。小説家・島崎藤村 原作、部落差別の中で葛藤を抱えながら生きる教師の物語。

周囲の人々との出会いや、生徒たちのまっすぐなまなざしが、彼の心に少しずつ変化をもたらし、やがて自分のルーツと向き合う勇気が芽生え……。

主人公が自分自身の境遇を受け入れ、未来を切り開いていく過程を描いています。

日時　**12月10日(木)**
18:20～20:30[開場17:45]
場所　遠賀町中央公民館
費用　無料
その他
▷車椅子スペースあり
▷未就学児の託児あり(無料・要申込)
※申込期限　12/3(木)
託児申し込み・問い合わせ
福祉人権係　☎093-293-1273

■人権作品展示コーナー

人権をテーマに小・中学生が描いたポスターなどを展示します。

期間　11/28(土)～12/10(木)
場所　遠賀町中央公民館





■図書コーナー

人権問題に関する書籍を特集します。

期間　11/26(木)～12/22(火)
場所　遠賀町立図書館





知ることから、始めよう

何気ない言葉や態度、インターネットへの投稿が、誰かを傷つけているかもしれません。差別や偏見のない社会をつくるために、まずは知ること、そして考えることからはじめてみましょう。

あなたの小さな気づきが、誰かを大切にすることにつながります。